独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院
第21回地域連絡協議会議事録

【日　時】令和7年5月16日（金）14時～15時
【場　所】大会議室（中央棟6階）
【議　題】Ⅰ新任委員紹介
　　Ⅱ地域医療連携に関するデータ報告　加藤室長
　　1）紹介率・逆紹介率・初診患者数の推移　資料1
　　2）病診連携（受診予約・検査予約・開放型病床利用状況等）　資料2
　　3）退院調整（調整件数・退院先状況）　資料3
　　Ⅲ「中京病院泌尿器科の地域における役割と現状」
　　泌尿器科部長　小松　智徳
　　Ⅳ　討論
　　Ⅴ　閉会

【出席者】（以下、敬称略、五十音順　職名は別紙参照）
ウィンターロード俊江、大島伸一、喜多村隆、近藤広見、真田昌代、鈴木理、西本和生、根﨑涼介、東昇生、日比野正範、三原亘、村上京子
【欠席者】
青木一郎、尾之内博規、加藤雅通、柴田真一、永井敏美、森下千恵美、矢田篤司
【当院出席者】
後藤百万、加田賢治、大野稔人、真弓俊彦、伊藤和幸、岡本勝男
【当院欠席者】
林英司、河嶋知子

【開会挨拶】
（後藤院長）
5月に入って新緑のすがすがしい気候となっています。本日はお忙しい中、第75回中京病院地域医療支援委員会、第21回地域連絡協議会にご出席いただき有難うございます。
今回は令和7年度になって初めての地域医療支援委員会となりますが、当院はこの4月に120名を超える新入職員を迎え、また10月の新棟完成、12月の引越し、来年1月からの開院に向かって、職員一同気持ちをあらたに頑張っています。
昨年度の医療実績としては、1日の平均外来患者数は1,060名とコロナ禍前に比べて回復傾向がみられないものの、紹介外来患者数は月平均1,000名とほぼコロナ禍前に戻っており、連携施設様には大変感謝しております。1日平均の入院患者数も441名とコロナ禍前の94%程度にとどまっていますが、コロナ禍からは回復傾向で、特に病床利用率や新入院患者数が年度ごとに回復してきています。手術件数はKコード分類で年間1万件を超え、全麻手術件数も年間3,000件を超え、コロナ禍前の令和元年よりも増加しています。救急車台数も年間6,200件とコロナ禍前よりも増加し、応需率も97.6%ということで断らない救急が実践できています。経営困難、人材不足などの厳しい医療情勢のなか、以上のように、地域における高度急性期・急性期病院としての役割はなんとか果たさせていただいていると思います。
他方、昨年度は、厳しい診療報酬改定、人材、特に看護師不足、物価高騰、給与ベースアップなどの影響により、全国急性期病院の70%以上が赤字となり、病院経営が非常に厳しい状況です。当院

も昨年度上半期まで大きな累積経常赤字となっていましたが、職員の頑張りや補助金などにより何とか年度黒字を達成できたという状況です。しかし、今年度は診療報酬改定もなく、物価高騰も続いており、また今のところ神風も期待できないようですので、病院経営としては厳しい状況が続くと思います。しかし、何としても地域医療への貢献を持続することが当院の役割ですので、引き続き職員一同頑張ってまいります。幸い、今年度完成する新棟では災害対策を念頭に置いた上で、がん診療、急性期医療、救急医療に必要な設備を集約化し、ハード環境が整います。また、救命救急センターについては、愛知県が重症外傷センターの設置を3年くらい前から検討していたところですが、この7月から藤田医大、愛知医大、名古屋掖済会病院に加え、中京病院が愛知県内の4つの重症外傷センターとして承認される見込みです。お手元に用意した中京病院ニュースにクラウドファンディングのお知らせとありますが、救急外傷センターに認定されることも含めて、ドクターカーの購入のためのクラウドファンディングも始めようとしているところでございます。
今年度は新棟開院に向けソフト面の整備も急ピッチで進めており、来年度からは、当院が高度急性期・急性期病院としてより高いレベルで地域貢献ができることを楽しみにしています。引き続きの御支援よろしくお願いいたします。

（ウィンターロード委員長）
南部界隈、もしくは名古屋市全体での感染症に関するお話をさせていただきたいと思います。
感染性腸炎が非常に猛威を振っていることに加えて、コロナやインフルエンザも発生している状況である。
そのような中で、感性性胃腸炎に紛れ込んで虫垂炎があったというケースを先日経験した。流行中だからという目先の考え方で、患者を診るのは危険であることを改めて痛感した。
引き続き、いろんな感染症に留意しながら、地域の皆様に貢献できるようにしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Ⅰ新任委員紹介
（東昇生委員）
救急車の受け入れに大変ご協力いただきまして、ありがとうございます。
今、名古屋市内では救急車の出動件数がまた前年度を超えるような勢いでありますので、また中京病院の受け入れをぜひよろしくお願いしたいと思います。

（三原亘委員）
日頃はいきいき支援センター事業に大変お世話になっており、ありがとうございます。
いきいき支援センターの事業については医療分野の皆様方との連携が肝になっておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いしたいと思います。

（岡本勝男委員）
中京病院の運営ついてご理解いただきましてありがとうございます。
忌憚のないご意見いただけましたら、それを踏まえて、より良い中京病院になり、地域の皆様を支えられるような医療を提供していこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

Ⅱ　地域医療連携に関するデータ報告（加藤室長）
1）紹介率・逆紹介率・初診患者の推移（資料1）
<u>地域医療支援病院報告事項一覧</u>（資料1-1）
◆ 外来・入院等実績
外来患者延数は61,880人、入院患者延数は42,483人、稼働病床利用率は84.1%、

平均在院日数は12.0日、在宅復帰率は98.2%となっている。

◆ 紹介・逆紹介実績

初診患者は4,361人、紹介患者数2,829人（紹介率64.9%）。逆紹介患者数は4,510人（逆紹介率103.4%）となっている。

◆救急実績

救急患者総数は3,995人、入院しなかった数は、2,909人でその割合は72.8%。
入院した患者は、1,086人、27.2%は入院となっている。
救急搬送の患者は、1,466人。救急車以外のウォークinとされる患者は2,529人、
小児救急患者の数は511人。

◆紹介率・逆紹介率・初診患者（資料1-2）

初診数　1月1,670件、2月1,246件、3月1,445件
紹介率　1月57.1%、2月70.4%、3月69.1%。
逆紹介率　1月89.7%、2月109.6%、3月113.9%

2）病診連携（受診予約・検査予約・開放型病床利用状況等）（資料2）

◆FAX・Web2024年度（1～3月実績、2024年度実績）（資料2-1、2-2）

FAX・Webの予約状況では、眼科、消化器科、泌尿器科、循環器内科が多い。
検査においては、従来どおりCT・MRが多く、次いで上部内視鏡検査が多い。

◆開放型病床利用（資料2-3）

第四四半期は0件。年度別でも従来は眼科と内分泌・糖尿病内科での利用があったが2024年度はなかった。

3）退院支援（資料3）

◆2023年度退院支援件数・転帰（資料3-1）

退院患者数14,272件　退院支援件数13,570件
退院支援13,570件のうち死亡404件、転院1,335件、施設492件、自宅11,339件
転院、施設の内訳は資料3-2参照

≪質疑応答≫

（ウィンターロード委員長）

一般のクリニックからの紹介後、クリニックに逆紹介という形で戻らず、リハビリ病院等に転院になった場合、クリニックへの情報共有はできないのか？

（加藤室長）

外来ならば、そのまま紹介元への逆紹介になるだろうが、入院となった患者で別のリハビリ病院等に転院した時については報告が不十分であるかもしれない。

（江口師長）（中京病院地域医療連携室看護師長）

紹介してくださった開業医の先生にも連絡ができるように試みをしているところである。

（大島委員）

退院支援について、2024年度は急激に件数が増えているが、その理由は？
また、退院支援というのは、具体的にどのようなことをおこなっているのかを教えてください。

（加藤室長）

退院支援は、病棟で医師を含めた多職種で患者さん本人と、一般病院への転院や、自宅に帰る準備としての話をする場を持っている。

（後藤院長）
件数が増えた理由については、これまでも患者が退院する場合は情報共有等を行っていた。
しかし 2023 年度までは支援を行っているにも関わらず退院支援加算が算定できていなかったことが判明したため、2024 年度からは、退院支援を行ったら加算をきちんと算定するということを意識したことで増えたというところ。

（大島委員）
資料のグラフは退院支援加算を算定した件数という理解でよいのか？

（後藤院長）
その通り。

Ⅲ「中京病院泌尿器科の地域における役割と現状」　泌尿器科部長　小松　智徳
≪要旨 - スライドより抜粋≫
・中京病院の特色
・前立腺肥大症に対する低侵襲治療
・ロボット手術
・腎移植
・小児泌尿器科

≪質疑応答≫
（西本委員）
小児の急性陰嚢症について、開業医が気をつける点等があれば教えてください。

（小松泌尿器科部長）
ものを言える子供の場合はよいが、それができない子供の場合は、ぐずっている、陰嚢が赤くなっている等で見つけるしかないと思われる。
明け方に発症することが多く、朝一で開業医の先生が診療を行うことが多い中で、最初はお腹が痛いと訴えるが、お腹は異常がないのでお腹の痛いということには気をつけていただきたい。
病院の専門医は後から診る立場だが、陰嚢を痛がっている場合、専門医でも本当に精巣が捻転しているのか、あるいは炎症を起こしているだけなのかという判断に悩む場合も多い。それを一般の開業医の先生が正確に診断をして病院に送るのは難しいと思われる。陰嚢を痛がっている子供がいたら、すぐにも泌尿器科に連絡をし、あとは病院の泌尿器科で対応するという形がよいのではないかと思われる。

Ⅳ　討論
特になし。

Ⅴ　閉会

2024 年度　地域医療支援委員会開催予定
・次回の地域連絡協議会は 11 月 21 日（金）に開催予定

第21回独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院地域連絡協議会
2024年5月16日（金）

院外委員

NO	委　員(ﾌﾘｶﾞﾅ) （五十音順・敬称略）	職　名	新任	備　考	出欠
1	青木　一郎（ｱｵｷ　ｲﾁﾛｳ）	南区歯科医師会長		医療関係団体	欠席
2	ウインターロード俊江 （ｳｲﾝﾀｰﾛｰﾄﾞ　ﾄｼｴ）	南区医師会長		医療関係団体	出席
3	大島　伸一（ｵｵｼﾏ　ｼﾝｲﾁ）	国立長寿医療研究センター名誉総長		学識経験者	出席
4	尾之内　博規（ｵﾉｳﾁ　ﾋﾛｷ）	知多郡医師会長		医療関係団体	欠席
5	加藤　雅通（ｶﾄｳ　ﾏｻﾐﾁ）	愛知県医師会理事		医療関係団体	欠席
6	喜多村　隆（ｷﾀﾑﾗ　ﾀｶｼ）	明治学区連絡協議会名誉会長		市民代表	出席
7	近藤　広見（ｺﾝﾄﾞｳ　ﾋﾛﾐ）	名古屋市南区訪問看護 ステーション所長		医療関係団体	出席
8	真田　昌代（ｻﾅﾀﾞ　ﾏｻﾖ）	善常会リハビリテーション病院 事務部長		医療関係団体	出席
9	柴田　真一（ｼﾊﾞﾀ　ｼﾝｲﾁ）	緑区医師会長		医療関係団体	欠席
10	鈴木　理（ｽｽﾞｷ　ｵｻﾑ）	天白区医師会長		医療関係団体	出席
11	永井　敏美（ﾅｶﾞｲ　ｻﾄﾐ）	名古屋市医師会担当理事		医療関係団体	欠席
12	西本　和生（ﾆｼﾓﾄ　ｶｽﾞｵ）	熱田区医師会副会長		医療関係団体	出席
13	根﨑　涼介（ﾈｻﾞｷ　ﾘｮｳｽｹ）	医）山口病院　地域医療連携室室長		医療関係団体	出席
14	東　昇生（ﾋｶﾞｼ　ﾉﾘｵ）	名古屋市南消防署長	○	医療行政代表	出席
15	日比野　正範（ﾋﾋﾞﾉ　ﾏｻﾉﾘ）	南区薬剤師会長		医療関係団体	出席
16	三原　亘（ﾐﾊﾗ　ﾜﾀﾙ）	名古屋市南区南部いきいき支援センター センター長	○	医療関係団体	出席
17	村上　京子（ﾑﾗｶﾐ　ｷｮｳｺ）	瑞穂区医師会長		医療関係団体	出席
18	森下　千恵美（ﾓﾘｼﾀ　ﾁｴﾐ）	名古屋市南区保健福祉センター福祉部長		医療行政代表	欠席
19	矢田　篤司（ﾔﾀﾞ　ｱﾂｼ）	港区医師会副会長		医療関係団体	欠席

出席：　12名

院内委員

NO	委　員(ﾌﾘｶﾞﾅ)	職　名	新任	備　考	出欠
1	後藤　百万（ｺﾞﾄｳ ﾓﾓｶｽﾞ）	病院長		病院代表	出席
2	加田　賢治（ｶﾀﾞ ｹﾝｼﾞ）	副院長		〃	出席
3	大野　稔人（ｵｵﾉ ﾄｼﾋﾄ）	副院長		〃	出席
4	林　英司（ﾊﾔｼ ｴｲｼﾞ）	副院長		〃	欠席
5	真弓　俊彦（ﾏﾕﾐ ﾄｼﾋｺ）	副院長		〃	出席
6	河嶋　知子（ｶﾜｼﾏ ﾄﾓｺ）	副院長兼看護部長		〃	欠席
7	伊藤　和幸（ｲﾄｳ　ｶｽﾞﾕｷ）	薬剤部長		〃	出席
8	岡本　勝男（ｵｶﾓﾄ　ｶﾂｵ）	事務部長	○	〃	出席

出席：　6名